

令和6年度

授業進度計画

(シラバス)

3年次

学校法人 穴吹学園 穴吹医療大学校

看護学科

目 次

教育課程表	1
カリキュラム構造図	3
3年次	
コミュニケーショントレーニングⅢ	4
人間理解の基礎	5
臨床薬理学	6
保健指導論	7
保健統計	8
地域看護学	9
地域・在宅看護方法論Ⅱ(技術)	10
看護演習Ⅴ(救急蘇生法)	11
老年看護方法論Ⅱ(生活支援・意思決定支援・認知症・がん・難病)	12
老年看護方法論Ⅲ(看護過程)	13
看護演習Ⅵ(成老Ⅱ・Ⅲ:技術演習・リフレクション)	14
小児看護方法論Ⅲ(看護過程)	15
看護演習Ⅶ(小児:技術演習・リフレクション)	16
母性看護方法論Ⅱ(産褥・育児)	17
母性看護方法論Ⅲ(看護過程)	18
看護演習Ⅷ(母性:技術演習・沐浴・リフレクション)	19
精神看護方法論Ⅰ(症状別看護)	20
看護研究Ⅰ(基礎)	21
臨地実習	
地域看護学実習(居場所・産業・行政)	22
成人・老年看護学Ⅱ実習(急性期・回復期)	23
成人・老年看護学Ⅲ実習(慢性期・終末期)	24
成人・老年看護学Ⅳ実習(リハビリテーション・継続看護等)	25
小児看護学実習	26
母性看護学実習	27

教育内容		授業科目	単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
		科目名						
基礎分野	科学的思考の基礎	教育心理学	1	30	30			
		教育学(教育原理・教育方法論)	1	30	30			
		論理的思考の基礎	1	20	20			
		看護物理学	1	15		15		
		情報モラル	1	15	15			
		情報科学概論	1	15	15			
		コンピュータ情報処理演習	1	30		30		
		小計	7	155	110	45		
	人間と生活・社会的理解	倫理学Ⅰ	1	15	15			
		倫理学Ⅱ	1	15				15
		法学概論	1	15	15			
		家族社会学	1	15	15			
		英語コミュニケーション	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅠ	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅡ	1	30		30		
		コミュニケーショントレーニングⅢ	1	15			15	
		人間理解の基礎	1	15			15	
	小計	9	180	105	30	30	15	
	計	16	335	215	75	30	15	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅱ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅲ(演習)	1	15		15		
		人体の機能学Ⅰ	1	30	30			
		人体の機能学Ⅱ	1	30	30			
		臨床生化学	1	20	20			
		臨床栄養学	1	20		20		
		小計	7	175	140	36		
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染防御学	1	30	30			
		病理学	1	30	30			
		臨床薬理学	1	30			30	
		疾病治療学Ⅰ(呼吸・循環・消化器)	2	40	40			
		疾病治療学Ⅱ(内分泌・免疫・血液)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅲ(脳神経・運動・精神)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅳ(小児・腎・泌)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅴ(生殖器・周産期)	1	15		15		
	リハビリテーション論	1	15		15			
	小計	10	250	100	120	30		
	健康支援と社会保障制度	看護と法律(保助看法・関係法規)	1	30				
		公衆衛生学	1	20		20		
		社会福祉・社会保障論	1	30		30		
		保健指導論(健康科学概論含む)	2	40			40	
		保健統計	1	20			20	
小計	6	140		50	60	30		
計	23	565	240	205	90	30		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ(概念・歴史)	1	30	30			
		基礎看護学概論Ⅱ(看護倫理・理論)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅰ(コミュニケーション・感染)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅱ(バイタル・看護記録)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅲ(フィジオセラピー)	1	20		20		
		基礎看護方法論Ⅰ(環境・活動)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅱ(清潔)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅲ(食事・排泄)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅰ(与薬)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅱ(検査・治療)	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅲ(経過別・症状別)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅳ(看護過程)	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅴ(看護過程の実践)	1	15		15		
	看護演習Ⅰ(基礎Ⅰ:技術・リフレ)	1	15	15				
	看護演習Ⅱ(基礎Ⅱ:技術・リフレ)	1	15		15			
	小計	15	365	255	110			
	地域・在宅看護論	地域看護学	1	15				15
		在宅看護概論	1	15	15			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ(家族援助)	1	30		30		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ(技術)	1	30			30	
地域・在宅看護方法論Ⅲ(展開・演習)		1	30				30	
看護演習Ⅲ(在宅:技術・リフレ)		1	15				15	
小計	6	135	15	30	45	45		

別表1-1 看護学科/4年制

(令和4年度入学生)

(2/2)

授業科目		単位数	時間数	1年	2年	3年	4年	
教育内容	科目名							
専門分野	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
		成人看護方法論Ⅰ(呼吸・循環)	1	30		30		
		成人看護方法論Ⅱ(アレルギー・血液)	1	20		20		
		成人看護方法論Ⅲ(脳・代謝)	1	30		30		
		成人看護方法論Ⅳ(消化器・泌尿・腎臓・骨格・皮膚看護学)	1	30		30		
		看護演習Ⅳ(成人Ⅰ:技術・リフレ)	1	15		15		
		看護演習Ⅴ(救急蘇生法)	1	15			15	
	小計	7	170	30	125	15		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
		老年看護方法論Ⅰ(運動・腎)	1	15		15		
		老年看護方法論Ⅱ(認知機能・老年性痴呆・認知症・痴呆・痴呆)	1	30			30	
		老年看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	20			20	
		看護演習Ⅵ(成人Ⅱ:技術・リフレ)	1	15			15	
	小計	5	110	30	15	65		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
		小児看護方法論Ⅰ(発達段階別)	1	30		30		
		小児看護方法論Ⅱ(症状別看護)	1	30		30		
		小児看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	15			15	
		看護演習Ⅶ(小児:技術・リフレ)	1	15			15	
	小計	5	120	30	60	30		
母性看護学	母性看護学概論	1	30		30			
	母性看護方法論Ⅰ(妊娠・分娩・新生児)	1	30		30			
	母性看護方法論Ⅱ(産褥・育児)	1	30			30		
	母性看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	15			15		
	看護演習Ⅷ(母性:技術・沐浴演習・リフレ)	1	15			15		
小計	5	120		60	60			
精神看護学	精神看護学概論	1	30		30			
	精神看護方法論Ⅰ(症状別看護)	1	30			30		
	精神看護方法論Ⅱ(生活)	1	30				30	
	精神看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	15				15	
	看護演習Ⅸ(精神:技術・リフレ)	1	15				15	
小計	5	120		30	30	60		
看護の統合と実践	看護管理論Ⅰ(医療安全)	1	15				15	
	看護管理論Ⅱ(看護マネジメント)	1	15				15	
	災害看護論(トリアージ含む)	1	30				30	
	国際看護論	1	15				15	
	看護研究Ⅰ(基礎)	1	30			30		
	看護研究Ⅱ(実践・研究発表含む)	1	30				30	
	看護の展望(学会参加・看護発表会含む)	1	30				30	
	救急蘇生法Ⅰ(日赤救急法含む)	1	15		15			
	救急蘇生法Ⅱ(BLS研修含む)	1	30				30	
	看護演習Ⅹ(生活:技術・リフレ)	1	20				20	
	看護演習Ⅺ(統合:技術・リフレ)	1	30				30	
	総合看護セミナーⅠ(総合看護過程Ⅰ)	1	30				30	
	総合看護セミナーⅡ(総合看護過程Ⅱ)	1	30				30	
総合看護セミナーⅢ(卒業前演習)	1	20				20		
小計	14	340		15	30	295		
臨床実習	基礎看護学Ⅰ実習(対象理解)	1	45	45				
	基礎看護学Ⅱ実習(日常生活援助)	2	90		90			
	地域看護学実習(居場所・産業・行政)	1	45			45		
	地域・在宅看護論実習	2	90				90	
	成人・老年看護学Ⅰ実習(看護過程展開)	2	90		90			
	成人・老年看護学Ⅱ実習(急性期・回復期)	2	90			90		
	成人・老年看護学Ⅲ実習(慢性期・終末期)	2	90			90		
	成人・老年看護学Ⅳ実習(リハビリテーション・終末期)	2	90			90		
	小児看護学実習	2	60			60		
	母性看護学実習	2	60			60		
	精神看護学実習	2	90				90	
	生活援助実習(施設等)	2	90				90	
	看護の統合と実践実習	2	90				90	
臨床実習 計	24	1020	45	180	435	360		
総合計	125	3400	860	905	830	805		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
コミュニケーション トレーニングⅢ	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	松本美称 他
<p>[授業の目的・ねらい] 就職試験に向け自己分析し自己洞察を深めるとともに、社会人として対人サービスを行う上での基本的なマナーを身につける。また、新人看護師として自分の意見や感情をアサーティブに表現できる能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.自己分析により、自己洞察した内容を記述できる。 2.就職活動に必要な力を取得する。 3.社会人としての、対人関係に必要な基本的マナーを習得する。 4.新人看護師に必要なアサーティブなコミュニケーションの理解と技術を習得する。</p> <p>【準備学習】授業の復習、事前課題に取り組み授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	就職活動を知る	1 就職活動を始める前に「夢」を描こう 2 「働く」とはなにか	
2	就職基礎教育	1 ものの見方、考え方	【就職部】
3		2 文章の書き方と構成の仕方 3 話の聞き方 4 プレゼンテーションの基本と応用 5 ディスカッションの基本と応用	
4		履歴書の書き方と伝え方	
5	自己PR	1 自分を知る工夫 2 自己PR 3 学生時代に力を入れたこと	
6	面接基本	1 面接の礼儀作法 2 面接に向けての準備 3 面接時によく聞かれる質問	【就職部】
7	インターンシップ	1 インターンシップ、施設説明会 2 なぜ参加するのか 参加前の準備と参加後の対応	
8	建設的でさわやかに 対話する	1 3つの自己表現スタイル 2 アサーティブな対人関係を築く 3 アサーティブなコミュニケーションの進め方	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・令和6年度就職の手引き ・熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材 ～一生役立つスキルで就職に勝つ！		1)出席状況.授業参加態度.課題にて総合評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
人間理解の基礎	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	松本美称/榊原智子 他
<p>【授業の目的・ねらい】 本授業は、様々な立場にある人の経験談や学生自らの体験をとおして、学生が自ら主体的に考える授業である。学生は、本授業をとおして様々な人の体験や、価値観に触れ、あらためて看護の対象である「人間」についての理解を深める。さらに、学生が自ら主体的に感性を磨くとともに、生きること、倫理観や専門職業人としての意識や責務、人により添う姿勢等を考え、自己成長を促進できる機会とする。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】 1. 「人」とはどういう存在なのかを考え、人に寄り添う姿勢について考える機会となる。 2. 社会人として、看護師として自己の社会的役割の認識と将来像を確立できる機会となる。</p> <p>【準備学習】 次回の授業内容をふまえて関連する事項または課題について予習して臨む</p>			
【授業の内容】			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	「人」どうい存在か	1. 本授業のねらいと学習内容、学習方法 学生間ディスカッション等	自由に自分の考えを述べる、 他者の考えを聞く、共感、意見交換
2	特別講義・外部研修等	下記内容等をテーマとして主体に学ぶ	
3		*出席した内容について課題レポート提出	
4		<テーマ>	
5		1. 看護の日記念講演に参加 2. 自分と他者の理解を深める 3. 患者・家族支援/疾病をもちながらよりよく生きる 4. 生きることや他者の人生観にふれるテーマ	看護の役割、看護への期待 自己理解、他者理解、多様性、共感 健康障害をもつ人の理解 生きるとは、生きがい
6		学内・学外の講演を聴講することや、ボランティアに参加することを通じて専門職業人として求められる人材として成長する機会とする	多様な人々の協働 つながり 自分との対峙
7			
8		※参加後はレポート提出	
【使用テキスト】		【単位認定の方法及び基準】(試験等の評価方法)	
必要に応じて資料配付		1)授業出席状況(出席・授業態度)を含めて、課題レポートにより総合的に評価 2)ボランティア活動3回は必修項目とする 3)特別講義を欠席した場合、他の講義や研修会を受講しレポートを提出する。	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床薬理学	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	小坂 信二/芳地 一(非常勤) (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

医学の進歩とともに、薬物の開発・研究がさかんに行われ新薬が誕生し、膨大な数の薬物が存在している。医療安全のより一層の確保を期する必要から、薬剤管理の面でも看護業務の拡大が進んでいる。そこで本科目では、基本的な薬物についてそれらの作用機序、薬物間の相互作用、薬物代謝、薬物取り扱いの基本的事項を学習し、患者が安全に安心して薬物治療を受けることができるよう看護実践に必要なスキルを身につける。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 薬物が生体に及ぼす影響と薬理作用について説明できる。
2. 個々の薬物の基礎知識、薬物の安全性、有毒性について説明できる。
3. 各種疾患に対して使用される薬物の適用方法、化学療法、輸血療法について説明できる。
4. 与薬時の看護師の役割と注意事項を考慮することができる。

[実務経験]小坂信二 芳地一:薬学部・医学部にて研究活動ならびに教育経験や薬剤師としての豊富な実務経験を有する薬物に関する基礎的な知識習得をめざし事例等活用して授業を展開する

[準備学習]授業の復習と次回の授業内容についてテキストにて予習して臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	医薬品総論	1) 医薬品 2) 医薬品の作用原理とその影響 3) 医薬品の適正な使用に向けて	医薬品の分類、医薬品に関連する法律 薬物の投与経路と薬物動態、薬物有害反応 医薬品使用時の注意点、処方から投与、5R 発症過程と使用薬剤の機序
2	主な生活習慣病に使用する薬	1) 生活習慣病 2) 高血圧 3) 狭心症 4) 心筋梗塞 5) 不整脈 6) 心不全	服薬指導 インスリン自己注射の患者教育
3	がん・痛みに使用する薬	1) がん使用する薬	抗がん薬の分類と作用、有害作用とその対策 WHO除痛ラダー、ペインスケール オピオイド鎮痛薬の特徴と有害作用
4		2) がん性疼痛に使用する薬 3) その他の痛みに使用する薬	
5	感染症に使用する薬	1) 細菌感染症 2) ウィルス感染症 3) 真菌感染症 4) 寄生虫感染症 5) 消毒薬 6) 予防接種薬	各感染症に用いられる治療薬の作用機序 薬物有害反応 消毒薬の適応と有害作用 予防接種の種類、副反応 脳における神経伝導物質
6	脳・中枢神経系疾患で使用する薬	1) 中枢神経系の働きと薬	各種薬剤の分類、薬理作用と有害反応
7		2) 抗てんかん薬 3) パーキンソン病治療薬 4) 向精神薬 5) アルツハイマー型認知症治療薬 6) 脳血管障害(急性期)の薬物治療	
8	救急救命時に使用する薬	1) 医薬品投与に関連する緊急状態	ショックを引き起こしやすい医薬品 ショック使用時の薬と作用・有害反応 加量投与、誤薬
9		2) ショックに対して使用する薬 3) 医薬品に関連した中毒に使用する薬 4) 救急カートに必要な薬 5) 麻酔に使用する薬 6) 輸液	
10	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬	1) 気管支喘息と薬物療法	全身麻酔薬、局所麻酔薬、麻酔補助薬 輸液の種類・投与時の注意点 薬剤の分類、薬理作用と有害反応 鎮咳薬、去痰薬 抗リウマチ薬・非ステロイド薬の作用と有害反応
11		2) 呼吸器疾患に使用する薬 3) 関節リウマチと薬物療法 4) 全身性エリトマトーデストと薬物療法	
12	消化器系疾患に使用する薬	1) 消化器系疾患に使用する薬の分類と特徴	増成機系疾患に使用する薬の分類 薬理作用と有害反応
13	その他の症状に使用する薬	臨床でよく遭遇する10疾患に使用する薬と服薬指導	各薬剤の作用機序と有害反応 服薬指導
14			
15			
	試験	上記終了後、期末試験	

[使 用 テ キ ス ト]

・古川 裕之他:ナースングラフィカ 疾病の成り立ち②
臨床薬理学

・必要に応じて資料提示

[単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準] (試 験 等 の 評 価 方 法)

科目終了時の最終試験100%

授 業 概 要 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
保健指導論	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
20回	2単位(40時間)	必須	松原文子(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 人々が自ら健康問題や課題に気づき保健行動がとれるよう支援するために、人々の保健行動の特性と効果的な介入方法、個人や集団における教育方法、組織化について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 保健指導の目的・特徴について説明できる。 保健指導に活用できる理論について、具体例を示して説明できる。 保健指導の展開過程と必要な技術について説明できる。 健康教育の目的・対象・教育を行う効果について説明できる。 健康教育の進め方や効果的な媒体づくりの説明ができる。 グループ育成、組織化にむけた支援について有効な理論・基礎的な考え方や技術を説明できる。 <p>[実務経験]松原文子:保健師として5年以上の実務経験。 地域にける保健活動経験を教材として保健指導のための基礎的知識・技術の習得を支援する。</p> <p>[準備学習]授業の復習ならびに次回授業内容の予習(テキストによる)、課題に取り組む。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	保健指導に活用できる	1)保健行動理論	<ul style="list-style-type: none"> 健康信念モデル 自己効力感 変化のステージモデル 計画的行動理論 ストレスとコーピング ソーシャルサポート コントロール所在
2	理論	2)保健指導に活用できる理論	
3	#		
4	#		
5	#		
6	#		
7	日本の健康問題	1)日本の健康問題の現状について	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育で取り上げる課題 企画と計画 周知方法 評価(効果効率の測定) 健康教育(グループワーク)の実際 媒体(パンフレット・リーフレット パネル・スライド・ポスター)
8	#		
9	#		
10	保健指導の展開	1)保健指導技術	
11	#		
12	#		
13	健康教育とは	1)健康教育と看護師の役割 2)健康教育の実践	
14	健康教育の展開	3)健康教育の進め方	
15	#	①計画化と準備	
16	#	②教育実践の中のおさえ ③実施および評価	
17	#	4)参加者体験型健康教室	
18	#	①企画	
19	#	②プログラムづくり	
20	#		
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・松本千明:医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版株式会社 [参考文献] 国民衛生の動向		1)健康教育媒体づくり、発表、参加状況等: 70% 2)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験): 30%	

授 業 概 要 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
保健統計	看護学科/3年次	令和6年度	講義 演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20時間)	必須	松本 美称 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 社会のニーズを把握して、そのニーズに沿った支援を行うために、集団の健康現象と健康に影響する諸条件をとらえる疫学の基礎的理論と調査・分析・活用方法に必要な統計学の基本的な知識および看護活動の実際に必要な知識について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 疫学概念、考え方、およびアプローチについて説明できる。 2. 疫学の意義と定義、多要因疾病観について説明できる。 3. 各種保健統計調査について説明できるとともに、統計結果の意味と現状と推移について述べる事ができる。 4. 統計学の基礎的な内容について説明できる。</p> <p>[実務経験]松本美称:保健師として5年以上の実務経験。 疫学・保健統計の必要性、統計結果の意味と活用について、実際の統計結果を用いながらわかりやすく理解できるよう授業方法を工夫する。</p> <p>[準備学習]授業の復習ならびに次回授業内容の予習(テキストによる)、課題に取り組む。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	疫学概念と歴史	1)疫学概念 2)疫学の歴史	疫学の定義 看護における疫学の意義
2	疫学研究	1)疫学研究概念 2)疫学研究方法 ・標本抽出 ・記述研究 3)横断研究 生態学的研究 4)症例対照研究とコホート研究	看護研究と疫学 標本抽出法
3	#	1)相対危険と寄与危険 2)オッズ比	
4	疾病頻度の指標	1)疾病指標概念 2)疾病指標	有病率 罹患率(累積罹患率) 致命率 死亡率 指標の相互関係
5	保健統計調査	1)保健統計調査	人口静態統計 人口動態統計
6	#	#	出生率 死亡率 死因統計 死産と乳幼児死亡 婚姻と離婚 平均寿命 その他の保健統計調査
7	スクリーニング	1)予防とスクリーニング	スクリーニング
8	疾患の疫学	1)おもな疾患の疫学	
9	統計学の基礎	1)疫学と統計学	データをまとめる意義
10	#	2)データの見方 代表値・平均・散布度・標準偏差 平均値・中央値・最頻値・パーセンタイル値・相関 EXCEL統計処理	グラフの特徴
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト] ・木下秀一著:基本からわかる看護疫学入門 第3版 医歯薬出版株式会社,2017. ・国民衛生の動向		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 1)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
地域看護学	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	松原 文子(非常勤)実務経験有

[授業の目的・ねらい]

人々の本来の生活の場である地域(コミュニティ)の意義、そこで主体的に生活して保健活動を行っている住民や住民の活動を支援している行政機関や保健福祉機関の活動を学ぶとともに、対象が生きがいを持ち健康な生活ができることを支援する看護職の役割と必要な能力について学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

1. 地域看護学の理念と目的並びに基本概念について説明できる。
2. 地域看護学の活動分野、対象、方法について特性を踏まえて説明できる。
3. 地域コミュニティを軸とした協働の町づくりの実際について説明ができる。
4. 健康や生活ができることを支援する看護職の役割と必要な能力について説明できる。

[実務経験]松原文子:保健師として5年以上の実務経験。

地域での看護実践経験を教材に学生がわかりやすい授業を工夫する。

[準備学習]

授業の復習と次回の授業内容をテキストにて予習。必要に応じて調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	地域看護学の 成立の基盤	1) 地域看護学の歴史と定義 2) 地域看護学の理念と目的 3) 地域看護学の基本的概念	
2	地域看護活動の構成	1) 活動の領域 ① 公衆衛生看護 ② 在宅看護	地域と人口集団を対象とした看護 地域を基盤にした看護
3	地域の概要と環境の理解	2) 活動対象の特性 3) 社会での生活者としての個人の理解	
4	地域ヘルスケアシステム と社会資源	1) 自然・文化・社会	地域ヘルスケアシステム ヘルスプロモーションと1～3次予防
5	住民活動を支援している 行政機関	1) 地域ヘルスケアシステム 2) 地域で活用できる社会資源について	
6	”	1) 住民活動を支援している行政機関や 保健福祉機関の活動	
7	地域に向けた看護活動	2) 住民を支援する看護職の役割と必要な能力	
8	地域コミュニティ	1) 慢性疾患を持ちながら地域で 生活している人への看護	
		1) 地域コミュニティの意義 2) 住民の主体的活動と住民組織 3) 住民活動を支援している行政機関 保健福祉機関の活動 4) 住民を支援する看護職の役割と必要な能力 5) 地域に向けた看護活動	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

適宜紹介

[参考テキスト]

- ・木下由美子編集代表:エッセンシャル地域看護学
第2版医歯薬出版会.
- ・国民衛生の動向

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
地域・在宅看護方法論Ⅱ(技術)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	林 晶子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 在宅看護方法論Ⅱ(技術)では、在宅看護の実践に必要な看護援助の基本を学ぶ。在宅療養者とその家族のセルフケア能力を最大に生かし、個々の家庭の状況をふまえてその状況に応じた生活支援に必要な看護援助について学ぶ。具体的には、日々の生活に欠かすことのできない日常生活行動への援助技術について学ぶ。さらに、医療依存度の高い在宅療養者とその家族への援助技術について具体的に学ぶ。学習においては自ら主体的に学ぶことを期待する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 在宅療養者と家族の生活支援のための看護援助について理解できる。 2. 在宅で療養する意味を理解し、日常生活を中心とした在宅看護に必要な基礎的知識・技術が理解できる。 3. 医療依存度の高い在宅療養者と家族への看護に必要な基礎的知識・技術が理解できる。 4. 自ら主体的に、授業・課題に取り組むことができる。</p> <p>【実務経験】林 晶子:看護師として5年以上の実務経験。 在宅・地域での看護実践経験の教材化、また、学生の能動的学習の促進が図れるよう工夫する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いた予習、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	訪問看護の概要・理念	1. 家庭訪問の意義と訪問時のマナー 1) 面接の方法・技術 2) 信頼関係の形成	・信頼関係の形成 ・看護師に必要とされる資質、マナー
2	家庭訪問の意義とマナー 主体的意思決定支援	2. 主体的意思決定の支援	・権利擁護とエンパワーメントの支援
3	在宅酸素療法を必要とする 療養者の援助	1. 在宅酸素療法の目的と適応 2. 在宅酸素供給装置の特徴 3. 療養者・家族への支援とQOL	・療養者・家族のセルフケア能力 ・発生しやすいトラブルと援助のポイント ・QOLの視点と支援
4	在宅人工呼吸療法を 必要とする療養者の援助	1. 侵襲的人工呼吸療法の概要と適応 2. 発生しやすいトラブルと援助 3. 療養者・家族の支援と社会資源	・アセスメントの視点と援助の方法 ・療養者・家族のセルフケア能力 ・発生しやすいトラブルと援助のポイント
5			
6	在宅における認知症高齢者の 看護	1. 認知症高齢者と家族に対する在宅看護 2. 認知症患者を支える社会制度	
7	在宅におけるエンドオブライフケア	1. 在宅におけるエンドオブライフケア 2. エンドオブライフケアを支える職種連携	
8	在宅におけるCAPD管理	1. 在宅におけるCAPD管理 2. CAPDの資材の管理	
9	在宅療養者の日常生活援助	1. 家庭における基本的な生活援助	・アセスメントの視点と援助の方法
10	"	1) 住環境	・支援・教育のポイント
11	"	2) 食生活 在宅経管栄養・中心静脈栄養	・家庭での工夫
12	"	3) 排泄 膀胱留置カテーテル	・QOLの視点
13	"	4) 清潔	・発生しやすいトラブル
14	"	5) 移動・活動	・社会資源の活用
15	"	6) 服薬管理 7) 感染予防	
	試験	グループワークを行い、発表ロールプレイ 上記終了後前期末試験	
<p>[使用テキスト] 梶 有桂 編:ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅療養を支える技術</p>		<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 1) 科目終了時の最終試験の評価:100%</p>	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護演習V (救急蘇生法)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	山川 俊紀(非常勤) 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 2000年にアメリカ心臓学会が発表した心肺蘇生に関するガイドラインを契機に、心肺蘇生に対する役割はますます高まってきた。さらに救急医療の高度化に伴い、致命的状況からの救命率も上昇してきている。救命後のQOL(quality of life)は、できるだけ早期に心肺機能を回復させ生体へのダメージを少なくできるかどうかで左右される。看護において心肺蘇生法とは、基本的な看護技術の一つであり、常に予測性、準備性、即応性を持った対応が求められる。多様な救急場面において速やかに行動できるように本科目では心肺蘇生について科学的根拠に基づいた基礎知識、技術の習得を目的とし演習を取り入れて実践力を育成する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1 シミュレーターを用いて、急変時のアセスメントとBLS(basic life support)が実践できる 2 救急処置に用いられる主要薬剤の適応、作用副作用が述べられる 3 緊急処置の必要性を代表的な心電図波形を判断できる</p> <p>[実務経験]山川俊紀:医師ならびにDMATの一員として豊富な経験を有する。 実践経験を教材とし、また、科学的根拠もとづく技術の習得が図れるよう授業展開する。</p> <p>[準備学習] 前回の授業の復習と次回の授業内容について予習し授業に臨む。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	一次救命処置と二次救命処置(ACLS)	1)心肺蘇生法 2)気道確保・呼吸の補助・循環補助 3)チームの役割	一次救命処置と二次救命処置の違い
2	気道確保	1)オトガイ挙上 2)エアウェイ:経口・鼻腔 3)気管内挿管	心肺蘇生のABC DEF
3	換気と循環	1)バッグ・マスク人口呼吸 2)酸素投与方法 3)心臓マッサージ法	救急処置で使用する器具、薬品など
4	アルゴリズムの見方	1)心肺蘇生のアルゴリズム 頸脈のアルゴリズム、 電気的除細動のアルゴリズム AEDのアルゴリズム	
5	外傷医療	1)避けられた外傷死亡とは 2)高エネルギー事故とは	
6	災害医療	1)災害とは 2)災害医療と救急医療の違い	
7	トリアージ	1)トリアージとは	
8	＃	2)トリアージの演習	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト] 講師より適宜配布		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 科目終了時の最終試験評価(筆記試験など):100% [授業参加状況(遅刻・早退を含む)]	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
老年看護方法論Ⅱ (生活支援・意思決定)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	近藤幸子(実務経験有) 認定看護師
<p>[授業の目的・ねらい] 本科目はさまざまな健康レベル、障害レベルにある老年期の個人と家族を対象としている。その問題は加齢による心身機能の変化のほか、疾病、治療、生活環境・習慣など多様な影響を受けるため幅広い。そこでこれらを十分に尊重し、「生活の質」を高め個別の可能性を最大に発揮できるような、老年期の看護援助のあり方を考える。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1. 高齢者に生じやすい心身の健康問題を身体の機能と生活機能の両面からとらえ、正確にヘルスアセスメントできる。 2. 高齢者に生じやすい心身の健康問題に対し、個人と家族に看護援助、予防、指導、教育する方法を説明できる。 3. 老年期特有の薬物作用や問題を理解し、安全に薬物療法できる援助方法を述べるができる。 4. 高齢者のエンパワーメントを促進する看護の方法を学ぶことができる。</p> <p>[実務経験] 近藤幸子：保健師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践経験を活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。 その他講師(非常勤)：看護師として5年以上の実務経験を有し、担当分野の看護実践に精通している看護師ならびに認定看護師等。看護実践エピソードを教材として授業を行う。</p> <p>[準備学習] 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	1. 地域における看護活動生活支援のための援助	【1～5 近藤幸子】 1) 慢性疾患を持ちながら地域で生活している人への看護 2) 健康なライフスタイルへの支援 ① 外来で生活に即した保健指導 ② 行動科学の理論を用いた個別の患者教育 ③ 小集団への外来利用者への教育 3) 人生会議、エンドオブライフケア	他職種理解
2			地域における看護職の役割
3			
4			
5			・意思決定支援
6	2. 看護の実際	がん看護認定看護師による講義 化学療法を受ける患者家族への在宅支援 (外部講師)	・がん化学療法を受ける患者と家族への支援
7	”	がん看護認定看護師による講義 痛みの評価と疼痛緩和、意思決定ならびにQOL支援 (外部講師)	・がん性疼痛緩和 ・意思決定支援・QOL支援
8	”	慢性心不全のある高齢患者とその家族の看護 (外部講師)	・左心不全・右心不全
9	”		急性憎悪、日常生活援助と健康管理 社会資源
10	”	認知症のある患者とその家族への看護 (外部講師)	・認知症の病態・種類、認知機能の評価方法
11	”		・認知症の症状理解と日常生活援助、 認知症患者の家族への支援、認知症予防と治療
12	”	難病患者とその家族への看護 (外部講師)	・難病患者の理解と日常生活援助
13	”		心のケア、QOL、意思決定支援 ・難病患者の家族への支援と社会資源
14	”	人工呼吸器を装着している患者とその家族 への看護 (外部講師)	・人工呼吸器装着患者の理解とケア コミュニケーション、家族への支援
15	”		心のケアとQOL ・意思決定支援、緊急時の対応
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・堀内ふき他 編：ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ・堀内ふき他 編：ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・佐伯由香他 編：ナーシング・グラフィカ 呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版		1) 内容1)については科目終了時の最終レポート評価:100% 2) 内容2)については課題レポートの提出、出席状況を考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
老年看護方法論Ⅲ (看護過程)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20時間)	必須	吉田 展子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 老年期の発達課題や特徴、心身機能を理解し、急性期・回復期・慢性期・終末期の健康レベルを踏まえ、健康障害によって生じる反応をアセスメントし、看護過程の展開ができる。またその家族についても考えることができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 対象と家族を身体的、心理的、社会的側面から理解できる。 2. 対象を支えるその家族について理解できる。 3. 患者や家族を支えるチーム医療について理解できる。 4. 患者や家族を支える社会資源について理解できる。</p> <p>[実務経験]吉田展子:看護師として5年以上の実務経験。 アセスメントから計画立案まで一貫した思考ができるよう演習を工夫する。</p> <p>[準備学習] 老年期の特徴、事例をもとに調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	老年期の特徴についての復習	老年期の加齢に伴う変化のメカニズムを人体の機能・構造から理解し、アセスメントの方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を捉える ・複数の疾患を持つ高齢者の特徴理解 ・事例を挙げて看護展開する
2	老年期の看護過程について 事例紹介		
3	老年期の看護過程展開	クラスタリング アセスメント 関連図 看護計画立案	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達課題 ・残存機能を活かした計画立案 ・老年期の特徴を活かし、目標志向型の看護過程を展開する
4	＃		
5	＃		
6			
7			
8		<ul style="list-style-type: none"> ・これまで生きてきた長い時間を受け止め、肯定し、喪失体験やできないことばかりに目を向けるのではなく、今できている事、好きな事得意なことなどを、本人の強みとしてとらえその人らしさ、価値観を大切に する視点を重視する。 	
9	発表		発表 ディスカッション
10			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
堀内ふき 編:ナーシンググラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 堀内ふき 編:ナーシンググラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践		科目終了時の最終試験100% 学習態度・授業参加状況・レポート提出状況を加味する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護演習VI(成人・老年)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	吉田 展子/山下 美紀 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 3年次からは、専門分野の各領域の実習が始まる。領域実習に向けて、シミュレーション教材を使用し、必要な看護技術を習得することを目指す。 リフレクション(Reflection)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職業人としての成長に必須の思考過程である。 ここでは、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考えを深める内容とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。 2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。 3. 自己の看護観を言語化できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。</p> <p>[実務経験] 吉田展子・山下美紀:看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>[準備学習] リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	成人・老年看護学領域技術演習 オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	
2	成人・老年看護学領域技術 演習	2) 模擬事例のニーズを明確化し援助内容 の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズを満たすために援助方法の工夫をグループ内でディスカッションし、よりよい技術を追求する ・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮したフィジカルアセスメントが出来る。 ・グループ内でディスカッションして学びを共有する
3	#	3) 援助計画の立案 目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点 の明確化	
4	#	4) 計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画 の追加と修正	
		5) 技術試験	
5	成人・老年看護学実習	5) 深めたい内容の明確化	
6	振り返り演習 #	6) 演習 グループワーク・個人ワーク	
7	#	7) 成人・老年看護学実習振り返り発表会	リフレクション レポート作成
8	#	#	
[使用テキスト] 実習時に使用したテキストなど		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 1) 成人・老年領域技術試験:50% 2) リフレクション(授業態度、参加状況を含む評価表に基づく評価):50%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児看護方法論Ⅲ	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	森 直美

[授業の目的・ねらい]

疾患がある小児とその家族を対象に、根拠に基づいた看護過程展開の方法を、主にペーパーシミュレーションによる演習を通じて展開方法を学ぶ。

[授業終了時の達成課題(行動目標)]

1. 小児の主な疾患事例の対象と家族に必要な情報を系統的に収集できる。
2. 収集した情報に対してアセスメントができる。
3. 対象の状態を看護診断し、目標設定できる。
4. 看護計画が立案できる。

[準備学習]

小児期の特徴、疾患に罹患している小児や保護者の思いを想起し、事例をもとに調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児の主な疾患事例を用いた看護過程の展開	1. ガイダンス 1) 事例1: 幼児期の子どもの看護(気管支喘息) 2) 事例2: 学童期の子どもの看護(ネフローゼ症候群)	ピアジェの認知発達理論を学習し健康障害の影響を学ぶ。
2	"	事例1: 幼児期の子どもの看護(気管支喘息) 実習記録に沿って情報を整理する。	【演習1】 領域1.4について情報を分析する。
3	"	事例1: 問題を明確化し、看護計画を作成する。 ディストラクション/プレバレーション計画	【演習2】 パワーポイントで発表資料を作成する。
4	"	事例2: 学童期の子どもの看護(ネフローゼ症候群) 実習記録に沿って情報を整理する。	【演習3】 領域1.2.3.4.6.7.8について情報整理。
5	"	事例2: 学童期の健康管理/学習活動/自尊感情 第4回の情報に沿ってアセスメントする	【演習4】 グループ毎に担当箇所をアセスメント。
6	"	事例2: 関連図と看護計画 学童期の健康管理を作成する。	【演習5】
7	"	発表① 事例1: 幼児期の子供の看護(気管支喘息) ・ジェット吸入を嫌がる幼児に対する援助 ・幼児期の感染予防行動に対する工夫 ・遊びと看護とコミュニケーション	各グループ毎に学習成果を発表する。
8	"	発表② 事例2: 学童期の子供の看護(ネフローゼ症候群) ・具体的操作位～形式的操作位相における健康知覚/健康管理への支援 ・入院生活における学習活動/気分転換支援とコミュニケーション	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

中野 綾美 編: ナーシンググラフィカ 小児看護学①
小児の発達と看護
中野 綾美 編: ナーシンググラフィカ 小児看護学②
小児看護技術
中村 友彦 編: ナーシンググラフィカ 小児看護学③
小児の疾患と看護

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験(筆記試験)の評価: 90%
 - 2) プレバレーション評価: 10%
- 学習態度 授業参加状況 (遅刻・早退を含む)

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護演習Ⅶ(小児)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	森 直美
<p>【授業の目的・ねらい】 小児領域に必要な看護技術について、シミュレーション教材等を使用し、主体的に学び技術の習得を目指す。リフレクション(Reflection)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職人としての成長に必須の思考過程である。 ここでは、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考えを深める内容とする。</p> <p>【授業終了時の達成課題(行動目標)】 1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。 2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。 3. 自己の看護観を言語化できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。</p> <p>【実務経験】森:看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>【準備学習】 リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p>			
【授業の内容】			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児看護学領域技術演習オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	
2		2) 模擬事例のニーズを明確化し援助内容の抽出	
3	小児看護学領域	3) 援助計画の立案	モデル人形を使用しての観察・技術演習
4	技術演習	目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化	子どもの検査・処置
5	#	4) 計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画の追加と修正	子どものフィジカルイグザミネーション 子どもの検査・処置 小児看護技術 ・プレバレーション ・ディストラクション ・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮したフィジカルアセスメントが出来る。
6	小児看護学実習	5) 深めたい内容の明確化	
7	振り返り演習	6) 演習 グループワーク・個人ワーク	
8		7) 小児看護学実習振り返り発表会 #	リフレクション レポート作成
【使用テキスト】 実習で使用したテキストなど		【単位認定の方法及び基準】(試験等の評価方法) 1) 授業態度、参加状況を含む評価表に基づく評価:100% ※看護演習Ⅶ(小児) 小児看護学実習振り返り発表	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
母性看護方法論Ⅱ (産褥・育児)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
15回	1単位(30時間)	必須	高橋 美佐子(非常勤) (実務経験有)	
<p>[授業の目的・ねらい] 本科目ではマタニティサイクルにおけるケアとして、産褥および育児期にある女性の心身の変化を捉えてアセスメントし、基礎的看護実践能力を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 産褥期・育児期にある女性の心身の変化を人体の構造と機能の視点を加えて説明できる。 2. 産褥期・育児期にある女性のニーズにそった基本的看護援助技術を実施できる。 3. 産褥期・育児期にある女性および新生児の看護過程展開につながるアセスメント項目について説明できる。</p> <p>【実務経験】高橋美佐子:助産師およびとして5年以上の実務経験。 臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容をテキストによる予習。また、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>				
[授業の内容]				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	新生児の看護	1) 新生児の生理学的適応	中性温度環境、生理的黄疸	
2		2) 早期新生児の看護ケア		
3	産褥期の看護	産褥期の身体的変化と適応	全身の変化、生殖器の変化	
4		・子宮収縮状態の観察 産褥期のフィジカルアセスメントと看護ケア	子宮底の高さ、硬さ 排泄、活動と休息 栄養、家族計画 母親役割の獲得	
5				
6				
7		産褥期の心理社会的変化		
8		帝王切開後の産褥期の看護ケア		
9				
10	母乳育児と看護	1) 乳汁分泌のメカニズム	乳汁分泌を促すホルモン ラッチ・オン	
11		2) 母乳育児支援		
12				
13	産後の生活支援	1) 退院後の生活	産褥期の生活	
14		身体の回復と児の生活に合わせた生活 新しい生活を受け入れる環境		
15		2) 家族と他職種との協働と連携について 3) 母子を支える制度等		退院支援 母子保健法
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
横尾京子他:ナーシンググラフィカ母性看護学①, メディカ出版, 2016.		1)最終試験評価:100% (態度・出席率含む)		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
母性看護方法論Ⅲ (看護過程)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	松本 美称 (実務経験有)
<p>〔授業の目的・ねらい〕 本科目ではマタニティサイクルにおけるケアとして、褥婦および育児期にある女性の心身の変化を捉えてアセスメントし、基礎的看護実践能力を習得する。また、紙上事例演習では、授業方法として演習も取り入れるので、臨場感を持って真摯に学ぶことを期待する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(行動目標)〕 1. 産褥期・育児期にある女性の心身の変化を人体の構造と機能の視点を加えて説明できる。 2. 産褥期・育児期にある女性のニーズにそった基本的看護援助技術を実施できる。 3. 産褥期・育児期にある女性をゴードン適応看護モデルを用いた紙上事例による展開ができる。</p> <p>【実務経験】松本:助産師および保健師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容をテキストによる予習。また、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>			
〔授業の内容〕			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	事例による看護過程の展開	母性看護における看護過程	母性とは、母性看護とは 女性のライフサイクル、マタニティサイクル
2		母性看護の特徴 母性看護の対象 マタニティサイクルにおける看護の特徴 ウェルネス看護診断	
3		妊婦の事例展開	
4		切迫早産妊婦の看護過程 事例提示 アセスメント(1次～2次アセスメント、関連図) 問題の明確化(看護診断と看護問題) 看護計画(看護目標、計画立案)	
5		産婦の事例展開	
6		正常褥婦の看護過程 事例提示 アセスメント(1次～2次アセスメント、関連図) 問題の明確化(看護診断と看護問題) 看護計画(看護目標、計画立案)	
7		グループ発表および意見交換	
8			
〔使用テキスト〕		〔単位認定の方法及び基準〕(試験等の評価方法)	
横尾京子他:ナース・グラフィカ母性看護学①, メディカ出版、2016.		1)科目終了時の最終試験(筆記試験)の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態																									
看護演習Ⅷ(母性)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習																									
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																									
8回	1単位(15時間)	必須	松本 美称(実務経験有)																									
<p>[授業の目的・ねらい] 母性領域に必要な看護技術について、シミュレーション教材等を使用し、主体的に学び技術の習得を目指す。リフレクション(Reflection)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職人としての成長に必須の思考過程である。 ここでは、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考えを深める内容とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。 2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。 3. 自己の看護観を言語化できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。</p> <p>[実務経験]松本美称:助産師・看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>[準備学習] リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p> <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>単 元</th> <th>内 容</th> <th>学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>母性看護学領域技術演習 オリエンテーション</td> <td>1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示</td> <td rowspan="8" style="vertical-align: middle;">リフレクション レポート作成</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="4">母性看護学領域 技術演習</td> <td>2) 看護技術 レオポルド触診法</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>腹帯の巻き方</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>産褥子宮モデル 児頭の回旋と分娩の進行 新生児の沐浴(沐浴、おむつ交換、抱き方)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3) 沐浴技術試験</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="2">母性看護学実習 振り返り演習</td> <td>5) 深めたい内容の明確化</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6) 演習 グループワーク・個人ワーク</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>7) 母性看護学実習振り返り発表会 #</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	母性看護学領域技術演習 オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	リフレクション レポート作成	2	母性看護学領域 技術演習	2) 看護技術 レオポルド触診法	3	腹帯の巻き方	4	産褥子宮モデル 児頭の回旋と分娩の進行 新生児の沐浴(沐浴、おむつ交換、抱き方)	5	3) 沐浴技術試験	6	母性看護学実習 振り返り演習	5) 深めたい内容の明確化	7	6) 演習 グループワーク・個人ワーク	8		7) 母性看護学実習振り返り発表会 #
回	単 元	内 容	学習のポイント																									
1	母性看護学領域技術演習 オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	リフレクション レポート作成																									
2	母性看護学領域 技術演習	2) 看護技術 レオポルド触診法																										
3		腹帯の巻き方																										
4		産褥子宮モデル 児頭の回旋と分娩の進行 新生児の沐浴(沐浴、おむつ交換、抱き方)																										
5		3) 沐浴技術試験																										
6	母性看護学実習 振り返り演習	5) 深めたい内容の明確化																										
7		6) 演習 グループワーク・個人ワーク																										
8		7) 母性看護学実習振り返り発表会 #																										
[使用テキスト] 実習で使用したテキストなど		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 1) 授業態度、参加状況を含む評価表に基づく評価:100% ※看護演習Ⅷ(母性) 母性看護学実習振り返り発表																										

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
精神看護方法論Ⅰ (症状別看護)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
15回	1単位(30時間)	必須	非常勤講師 (実務経験有)	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 精神の健康障害を持つ対象として捉え、患者自身の抱える精神症状や状態の理解と、検査および治療における看護について学ぶ。精神看護の基本的な考え方や援助方法を理解し、対象の立場に身を置き相手の感じ方や見方・考え方に理解を示すこと(共感的理解)で、対象のみではなく家族をアセスメントできる視点を学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(行動目標)〕 1.当事者にとって「精神を病む」体験とはどのようなものか説明できる。 2.精神看護の「症状・状態のとらえ方」について説明できる。 3.精神障害者の基本的な症状(思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など)の、さまざまな精神症状について説明できる。 4.精神科における診断および治療について説明ができる。</p> <p>【実務経験】看護師として5年以上の実務経験。 看護実践経験を教材とし、学生が学びやすいよう授業方法を工夫する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いて予習して授業に臨む。</p>				
〔授業の内容〕				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	精神症状と診断・分類	1. 精神症状について		
2		2. 精神疾患の診断と分類		
3	主な精神疾患と看護	3. 精神作用物質による精神障害	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント * 気質性精神障害には、どのようなものがあるのか	
4		1) 統合失調症		
5		2) 神経症性障害		
6		3) 心的外傷後ストレス障害(PTSD)		
7		4) 心的外傷後ストレス障害(PTSD)		
7		5) 人格(パーソナリティ)障害		
8	医学的検査と心理検査	6) 気分障害	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント	
8		4. 医学的検査と心理検査		
9	精神科における治療 に対する看護	1) 臨床検査における看護の役割	医学的検査と心理検査の種類を整理しておこう	
10		2) 心理検査の種類とその特徴について		
10		5. 精神医療における治療の考え方		向精神薬の種類を整理しておこう
10		6. 精神科治療に関わる療法の特徴		
11	嗜癖・依存・反社会的行動	1) 薬物療法・電気けいれん療法(ECT)	行動制限、無断離院、SST	
12		2) 精神療法		
12		3) 社会療法・環境療法		
12		7. 嗜癖と依存と反社会的行動との関係と治療および看護の特徴		
13	プロセスレコード	1) アルコール依存症	精神依存と身体依存 家族への援助	
14		2) 薬物依存		
14		3) 逸脱行動	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント	
14		4) 精神作用物質による精神障害		
15	まとめ	9. プロセスレコード	患者-看護師関係をアセスメント	
15	まとめ	1) 対象者との関係を客観視するためのプロセスレコード		
15	まとめ	2) 対象の理解、ニーズの判断、必要とされる援助の実施と評価		
15	まとめ	まとめ 上記終了後、期末試験		
〔使用テキスト〕		〔単位認定の方法及び基準〕(試験等の評価方法)		
・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版		1)科目終了時の最終試験の評価:100%		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護研究 I (基礎)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	榑原 智子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

研究とは、新しい知識を発見し、一般化していく営みであり、看護職者が専門職として自律するために欠かせない領域である。本科目は「看護の統合分野」として位置づけ、「看護研究」とは何か、看護研究の種類、あるいは研究論文を臨床の場で活用するために、最近の研究の動向や研究方法の特徴・進め方に関する基礎的知識を学ぶ。

[授業終了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護実践における研究の意義と目的を理解し説明ができる。
2. 研究過程を理解し、研究目的に適したデザインを説明できる。
3. 文献活用の必要性和文献検索の方法を理解して文献検索ができる。
4. 事例研究の意義と研究計画書の作成方法を説明できる。
5. 研究における倫理上の配慮と責務を認識して説明ができる。

[実務経験]榑原智子: 看護師として5年以上の実務経験。

研究の基礎的知識の習得と興味関心がもてるよう、学生の能動的学習の促進を図る。

[準備学習]

前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いた予習、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護研究とは	1) 看護研究の目的、意義 2) 研究デザイン	研究デザイン
2	ケーススタディ①	ケーススタディの目的	実践から生まれる研究疑問
3	ケーススタディ②	ケーススタディのプロセス	
4	中範囲理論①	主要な中範囲理論	看護のメタパラダイム
5	中範囲理論②	グループワーク まとめ・発表	
6	文献検索	文献検討の意義・検索方法	医学中央雑誌
7		論文検索の方法・文献の種類	CiNii・Pub Med
8	クリティーク①	クリティークとは	文献レビュー
9	クリティーク②	クリティークするための能力	測定ツールの信頼性と妥当性
10	看護研究の倫理的配慮	研究における倫理的配慮	研究者としての倫理
11	看護研究のお作法	引用の仕方 エビデンスの使い方	指導を受けるコツ
12	4年生の看護研究聴講	研究の構成	発表者としての態度
13	#	発表方法	質疑応答の仕方
14	口頭発表・まとめ	1) 口頭発表の原稿作成ポイント 2) スライド作成ポイント	研究計画の書き方
16	まとめ	クリティークしながら文献を読む	

[使用テキスト]

川村 佐和子編: ナーシンググラフィカ基礎看護学④
看護研究

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了試験 80%
- 2) グループ学習の参加度と発表 20%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
成人・老年看護学Ⅱ実習 (急性期・回復期)	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・ 実習
授業の時間数	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位(90時間)	必須	榑原 智子 他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 成人・老年看護学Ⅱ実習では、成人・老年領域の知識・技術を統合し、急性期から回復期にある対象の健康生活をアセスメントし、対象の健康レベルに応じた看護援助を展開する。急性期から回復期、周手術期の看護も含み、看護実践を通じて成人期・老年期にある患者・家族における看護専門職の役割について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象のもつ問題を把握することができる。 2. 急性期から回復期にある対象の健康レベルに応じた看護過程を展開できる。 3. 急性期から回復期にある対象の健康レベルに応じた看護ケアを実践し、評価することができる。 4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。</p> <p>【実務経験】榑原智子他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容] 実習病院において、治療をうける成人・老年期の患者を受け持ち、以下の目標に沿って実習を行う。 その間、受け持ち患者の健康レベル(急性期、回復期)とその症状に応じて看護を行う。 (詳細については、実習手引き参照)</p> <p>1. 臨床現場において、急性期から回復期にある対象を総合的に理解し、個々のニーズに対応した看護過程展開する基礎的能力を身につける。 2. 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。 3. 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。</p>			
[参考資料] ・疾病の成り立ち①～④、成人看護学概論 成人看護学方法論①～⑥で使ったテキスト I・II ・NANDA-I看護診断		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 実習への参加状況および態度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (評価においては評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
成人・老年看護学Ⅲ実習	看護学科/3年次	令和6年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (90 時間)	必須	吉田 展子 (実務経験有)
<p>〔授業の目的・ねらい〕 成人・老年看護学Ⅲ実習では、成人老年看護学領域の知識・技術を統合し、対象の特徴を理解し、健康生活をアセスメントし、対象のQOL・健康レベルに応じた看護援助を展開する。また化学療法、放射線療法、臨死期にある看護も含みチーム医療、他職種との連携協働し、社会資源の活用などを通して成人・老年期にある患者・家族の看護について学習する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(行動目標)〕 1.成人・老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象のもつ問題を把握することができる。 2.対象の健康レベルに応じた看護過程を展開できる。 3.対象の健康レベルに応じた看護ケアを実践し、評価することができる。 4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。</p> <p>【実務経験】吉田他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>〔授業の内容〕 ＜実習展開＞ 実習病院において、治療をうける成人・老年期患者を受け持ち、以下の目標にそって実習を行なう。 その間、受け持ち患者の健康レベルとその症状に応じて看護を行う。</p> <p style="padding-left: 20px;">詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床現場において、成人・老年期にある対象を総合的に理解し、個々のニーズに対応した看護過程を展開する基礎的能力を身につける。 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。 			
〔参考資料〕		〔単位認定の方法及び基準〕(試験等の評価方法)	
・疾病の成り立ち①～④、成人看護学概論 成人看護学方法論①～⑥で使用したテキスト I・II ・NANDA-I看護診断		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
成人・老年看護学Ⅳ実習 <small>(継続看護・リハビリテーション)</small>	看護学科/3年次	令和6年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (90 時間)	必須	吉田 展子 他(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ お ら い]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の発達段階と加齢の現象および健康障害による問題を把握し、統合的に理解する。 2. 対象とその家族に応じ、臨床現場の実際に即した看護が展開できる能力を養う。 <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象の持つ問題を把握することができる。 2. リハビリテーションを受ける対象者のセルフケア能力をふまえ、看護計画を立案し残存機能を活かした日常生活援助ができる。 3. 対象者が家族とともに地域社会で健康的な生活を安心して営めるよう継続した看護援助ができる。 4. 看護に携わる専門職としての使命と責任を自覚して自己の老年観を見出すことができる。 <p>[実 務 経 験] 吉田展子他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>[準 備 学 習] 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容] 実習病院において、検査・治療・処置などを受ける老年期の患者を受け持ち、以下の目標に沿って実習を行う。</p> <p style="text-align: center;">詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージにおける成人・老年期の発達課題を考えることができる。 2. 成人・老年期の特性を理解し、その人の社会的役割や生きがい等を知ることができる。 3. リハビリテーションの目的・方法を理解し日常生活に応用ができる援助を考えることができる。 4. 二次障害の予防や機能を最大限に維持し、ADLの獲得、QOLの向上、社会生活の介入について援助することができる。 5. 地域社会で健康的な生活を営めるよう継続した看護援助ができる。 6. 社会資源の活用法を学ぶことができる。 7. 退院支援・退院調整における看護師の役割について説明できる。 			
<p>[使 用 テ キ ス ト] 老年看護学概論老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱで使 したテキスト及び演習で配付した資料など ・NANDA-I看護診断</p>		<p>[単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準](試験等の評価方法) 実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から 総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)</p>	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児看護学実習	看護学科/3年次	令和6年度	講義・演習・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位(60時間)	必須	森 直美他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 小児の成長発達を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康段階にある小児および家族に対して適切な看護が実践できる能力を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.健康な小児の身体的、心理・社会的発達の特徴を理解し、発達段階に応じた基本的生活の自立と保育の基本が把握できる。 2.健康障害がある小児の発達段階、健康レベル、小児をとりまく家族の状況を理解し看護を展開できる。 3.健康障害がある小児の健康レベル、発達段階に応じた援助を実施する。 4.保健医療福祉チームにおける看護の役割と連携方法を理解し、チームの一員としての態度を身につける。</p> <p>[実務経験]森 直美他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>[準備学習] 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p>			
<p>[授業の内容] ＜実習展開＞ 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <p>1. 保育所実習(1週間) 1)保育所での実習で、健康な小児(乳幼児)の成長発達を把握する。 2)発達段階に応じた基本的生活の自立と保育の基本を把握する。</p> <p>2. 病院の病棟実習(1週間) 1)健康障害がある小児の発達段階、健康レベル、小児を取り巻く家族の状況を理解し、看護を展開する。 2)健康障害がある小児の健康レベル、発達段階に応じた援助を実施する。</p> <p>3. 病院の外来実習、病棟及び病棟の未熟児室をローテート 1)保健医療福祉チームにおける看護の役割と連携方法を理解し、チームの一員としての態度を身につける。</p>			
<p>[参考資料] ・奈良間美保:系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 ・NANDA-I看護診断 ・配布した資料等</p>		<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)</p>	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
母性看護学実習	看護学科/3年次	令和6年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (60 時間)	必須	松本 美称 他 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性の特徴を身体的・精神的・社会的に認識し、看護理論とフィジカルアセスメント結果を用いて対象(妊婦、産婦、褥婦、新生児)の健康問題・課題について看護判断し看護を実践できる能力を養う。 保健医療福祉との連携・協働を前提とした看護チームの一員として看護を実践できる能力を養う。 <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護対象者を経過(妊娠、分娩、産褥期)に応じて理解し、援助(看護過程の展開)ができる。 臨地実習を通して自己の母性や女性について考え、生命倫理について認識できる。 母子相互作用を理解し、褥婦の健康・生活の維持と母子関係成立への援助ができる。 保健医療福祉との連携・協働を前提とした看護チームの一員として報告・連絡・相談ができる。 <p>【実務経験】松本美称:助産師・看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p><実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 周産期にある母子を受け持ち、看護過程を展開する。 実習部署は、産科病棟をはじめ、産婦人科外来、分娩室、新生児室にて実習する。 分娩があれば産婦の了解を得て、分娩第1期～分娩後2時間までの経過を見学実習する。 個別・集団指導の見学、及び必要に応じて企画・実施する。 実習前に基本技術、基本知識のプレテスト、終了時に同様のポストテストを行い、評価に反映させる。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
疾病治療学Ⅲ(周産期疾患)、母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲで使用したテキスト及び演習で配付した資料など		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

令和6年度
授業進度計画

令和6年4月1日発行

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校
